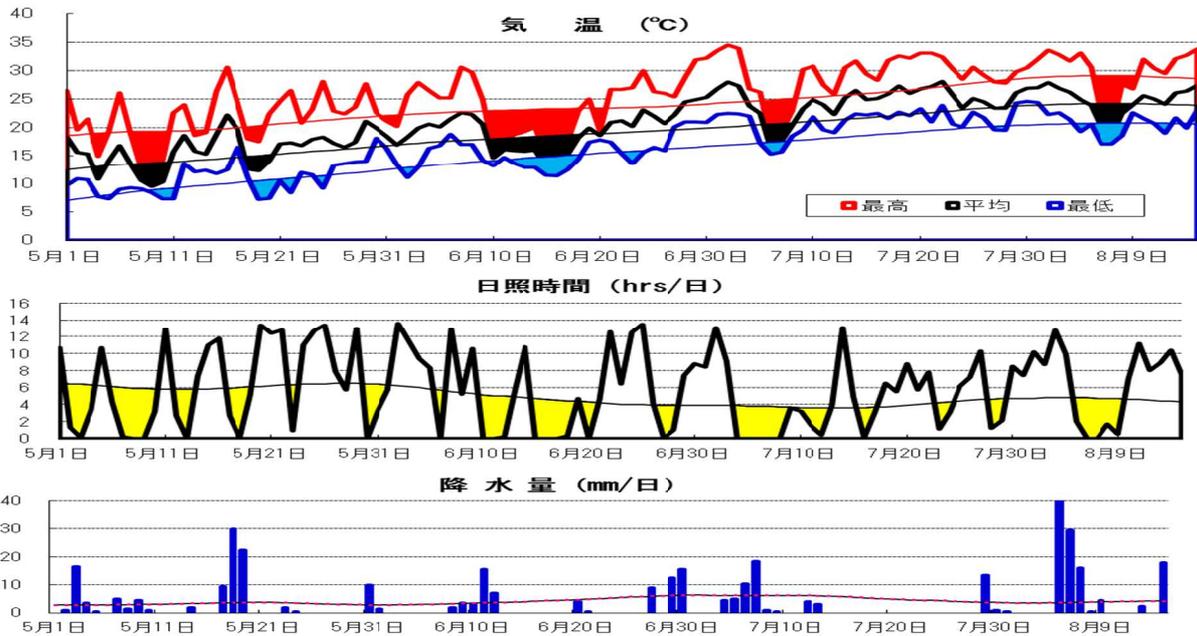


～～茎長・節数平年並み、総節数やや多く順調、適期防除を！～～

1 気象経過



- ・7月は高温多照傾向で、8月上旬は一時低温寡照であったがその後も高温多照傾向である。
- ・8/5～8/9にかけて台風等の影響で降水量が多かったが、気温・日照時間は平年並みであった。

| 項目 | 月・旬 | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | |
|--------|---------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | | 下旬 | 中旬 | 下旬 | 中旬 | 下旬 | 中旬 | 下旬 | |
| 平均気温 | 本年値(°C) | 18.0 | 19.7 | 16.2 | 22.5 | 23.1 | 25.4 | 25.5 | 24.0 |
| | 平年差(°C) | +2.0 | +2.1 | -2.4 | +3.1 | +2.6 | +3.6 | +2.1 | -0.3 |
| 積算日照時間 | 本年値(h) | 93.0 | 77.2 | 21.7 | 70.9 | 37.4 | 47.8 | 60.5 | 52.8 |
| | 平年比(%) | 134 | 130 | 44 | 179 | 98 | 133 | 121 | 107 |
| 積算降水量 | 本年値(mm) | 12.5 | 10.0 | 26.5 | 37.5 | 40.0 | 7.0 | 15.0 | 112.5 |
| | 平年比(%) | 34 | 33 | 63 | 65 | 68 | 12 | 32 | 308 |

2 生育状況

(古川農業試験場作況試験圃)

〔標 播〕

- ・主茎長は、標播で90～107cmで、平年より-3～+6cmで、平年並みである。
- ・主茎節数は、16.3～18.5節で、平年より-0.1～+0.5節で平年並みである。
- ・分枝数は3.9～5.6本で、平年及び前年よりやや多く、総節数は48～62節と平年並～やや多かった。
- ・開花期は平年より4～5日早かった。
- ・ミヤギシロメは、7月第6半旬から倒伏し始め、8月第1半旬に全面倒伏した。
- ・タンレイ及びミヤギシロメでべと病が散見される。

※県内の圃場では、台風の影響による雨で一部圃場に灌水が見られ、茎疫病が散見される。

【対策は連作を避けることや、排水対策の徹底】

8月10日現在の生育状況(古試)

| 播種期 | 品種名 | | 開花期 (月/日) | 主茎長 (cm) | 主茎節数 (節/本) | 分枝数 (本/本) | 総節数 (節/本) |
|--------------|-------|------|--------------|-------------|---------------|--------------|--------------|
| 標播 (5/25) | タンレイ | 本年値 | 7/22 | 91 | 16.3 | 3.9 | 48 |
| | | 前年差 | 1日早 | -8 | -1.4 | +0.6 | +9 |
| | | 平年差 | 4日早 | +6 | -0.1 | -0.1 | +4 |
| | タチナガハ | 本年値 | 7/22 | (90) | (17.8) | (5.6) | (62) |
| | | 前年差 | 4日早 | -23 | -1.1 | +1.2 | +16 |
| | | 平年差 | 5日早 | -1 | +0.5 | +1.0 | +15 |
| ミヤギシロメ | 本年値 | 7/29 | 107 | 18.5 | 4.0 | 52 | |
| | 前年差 | 2日早 | -20 | -0.3 | +0.2 | +2 | |
| | 平年差 | 4日早 | -3 | +0.1 | -0.2 | +5 | |
| 晩播 (7/3) | タンレイ | 本年値 | 8/10 | 51 | 10.4 | 1.7 | 15 |
| | | 前年差 | 4日早 | -8 | +0.6 | +1.2 | +4 |
| | | 平年差 | 1日早 | +7 | +1.2 | +0.6 | +3 |

3 今後の管理

1 病虫害防除 (病虫害防除所)

台風で
灌水



茎疫病



| 病虫害名 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|----------------|------|-----|--|
| 紫斑病 | — | やや多 | ・前年の子実調査の結果、発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量は平年よりやや多いと推測される。(/ +) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並の予報となっている。(/ ±) |
| ジャガイモヒゲナガアブラムシ | — | 少 | ・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) |
| 吸実性カメムシ類 | — | やや少 | ・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・高温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年より高い予報となっている。(/ +) |
| マメシクイガ | — | 平年並 | ・前年の発生量が平年並であったことから、越冬量も平年並と推測される。(/ ±) |

【紫斑病】

- ・開花期の20~40日後に1~2回防除するが、害虫との同時防除が可能で生育ステージをよく確認し、適期に効率的な防除を実施する。

【ジャガイモヒゲナガアブラムシ】

- ・8月下旬~9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除する。
- ・防除後も密度が低下しない場合は、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。
- ・葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏によくかかるように散布する。

【吸実性カメムシ類】

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期と子実肥大中期の2回薬剤を散布する。
- ・越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意する。

【マメシクイガ】

- ・連作すると発生が多くなるので、連作ほ場では特に注意する。
- ・成虫の発生盛期は、概ね8月第6半旬~9月第1半旬である。
- ・防除適期は、成虫発生盛期からその10日後である。

【オオタバコガ】

- ・葉裏等に産卵し、若齢期には展開中の新葉に潜り込み、中齢期以降は莢に移動して加害する。

2 適期収穫に向けて

- ・天候に大きく左右される収穫は、排水対策につける。排水が悪いと品質収量が低下する。
- ・刈取の敵奇異に達したらできるだけ早く、収穫作業ができるように圃場条件を整えたり、作業機械の整備をして雨の合間でも刈取作業ができるように準備する。